

おおの誠一郎

議会報告と提言

令和4年11月1日発行 発行責任者 大野誠一郎（龍ヶ崎市議会議員）



龍ヶ崎市宮沢町61
TEL 090-5780-6113

「道の駅龍ヶ崎」は継続？中止？

道の駅の再検証（市長公約）の結果公表を受けて

「道の駅龍ヶ崎」（仮称）が「戦略プラン」に策定されてから10年。護岸工事が軟弱地盤のため中断。萩原市長は「道の駅」の再検証を選挙公約に掲げて当選。このたび（10月18日）**再検証の結果を公表**した。今後、市民アンケートや意見交換会を実施した上で、来年3月までに市長が最終的な判断を行い、**継続？中止？**を決定することになる。

再検証で数字はどう変わった？

（以下、青字は当初計画、赤字は再検証後）

① 事業費 17億1,000万円 ➡ 25億6,000万円

8億5,000万円の増加は、グレードアップではなく、見落とした予算、物価上昇、消費税増税の見直しを行った結果。約26億円の事業費は80万人の利用者数、約9億円の売上高を30年間続け、定められた納付金が納められても回収不能。「**負の遺産**」、「**負の財産**」となり、人口減少時代にはなお一層負担が重い。

② 利用者数（レジ通過者数）70万人 ➡ 80万人

当初の計画より10万人増。今回（2022年）の調査時点では道の駅建設予定地に面した国道6号線の交通量が増加しており、その数値から算出されたもの。この「**80万人の利用者数**」は、以後30年間にわたる売上高、納付金（賃料）等の算出基礎として用いられることになる。

③ 年間売上高 7億8,400万円 ➡ 8億9,700万円 農産物類 3億8,100万円 ➡ 5億2,600万円

80万人に直売、飲食の客単価を掛けると、売上高は約9億円になるという説明。「農産物の直売」は道の駅にとっては大変魅力的で目玉商品となっている。だが、龍ヶ崎の農産物は「道の駅龍ヶ崎」に1割も並ばないという珍現象が生じる。龍ヶ崎の生産者農家は、**たつのこ市場への出荷で限界**（市内農家の令和4年の売上高は5,000万円）。離農、高齢化が進み、農産物等の売上高、約5億2,600万円は「**机上の空論**」に過ぎない。

④ 年間営業利益 約2,399万円 ➡ 約2,677万円

80万人のレジ通過者がいて、年間売上高8億9,700万円が見込めるという前提で算出された指定管理者（市から管理運営を委託した業者）の営業利益。農産物、加工品の約5～6億円の売上高を見込んでの営業利益。机上の空論のまた机上の空論である。

⑤ 納付金（指定管理者が市に支払う賃貸料） 約240万円 ➡ 約268万円

年間営業利益2,000万円以上は10%。3,000万円以上は15%、1,000万円以上は5%、1,000万円未満は0%を納付するという取り決めがある。2,677万円の営業利益は10%の約268万円。指定管理者は、50万人以下の利用者になり、利益がなければ契約を打ち切ることを考える。

⑥ 納付金（指定管理者が市に支払う減価償却費） 約1,157万円 ➡ 約1,300万円

事業費25億6,000万円のうち、12億8,000万円が減価償却費の対象。計算式があり、1,300万円の納付となり、30年間連続して80万人の利用者があつての計算。利用者数70万人以下の場合は半額となり、1,300万円が650万円の納付に。

⑦ 小規模・大規模修繕（市負担） 約5億5,200万円 ➡ 10億8,700万円

⑤、⑥の給付金は30年間納付しても4億7,040万円。10億8,700万円の修繕費用の半額さえ調達できない（80万人の利用者数、約9億円の売上高が30年連続する前提）。

⑧ 整備後30年間の収入 約4億300万円 ➡ 約4億5,300万円 整備後30年間の支出 約13億8,800万円 ➡ 約22億4,800万円

再検証の結果、当初約9億8,500万円（赤字）と見込まれていた収支差額（赤字）は約17億9,500万円に膨れ上がる。借入金（起債）10億9,400万円、利子6,700万円、小規模修繕費約3,600万円、大規模改修10億5,100万円、計22億4,800万円が30年間にわたって「人口減」の龍ヶ崎に「負の遺産」、「負の財産」として残ることになる。

「みんなでつくる龍ヶ崎新時代」の実現を！

「道の駅龍ヶ崎」が欲しい、道の駅があったほうがいい、賑やかになる、という市民の意見があります。

しかしながら、時を同じくして、龍ヶ崎市では学校統廃合により松葉長山小中一貫校の建設40億円（概算見積）、龍ヶ崎小中一貫校建設50億円（〃）、新給食センター約20億円、新保健センター約12億円6,000万円と、立て続けに大型事業が展開される計画となっています。また、超少子化、超高齢化社会、そしてさらなる人口減少の時代に対応するべく、「みんなでつくる龍ヶ崎新時代」の実現を望みます。